

## 身近な池で大きな発見：久米田池の水草の話

横川 昌史

久米田池は大阪府最大のため池です。岸和田の方であれば誰でも名前を知っているため池だと思います。養魚の池とか水鳥を観察する池という印象をお持ちの方が多いかもかもしれませんが、水草の重要な生育地になっていることはご存知でしょうか。本記事では久米田池の水草の調査からわかったことを報告します。

そもそも水草とは何でしょうか。その定義は様々ですが、「水が豊富なところで芽生えて、一生のある時期に根が水底か水中にある植物」という定義がわかりやすいかと思います。よく知られた植物だと、ヨシやガマ、ヒシ、アサザ、オオカナダモ、ホテイアオイなどが水草です。

久米田池にはどんな水草が生育しているのか調べるため、2017年の7月と9月に調査を行いました。池にボートを出してみるとホザキノフサモが一面に広がっていましたが(図1)、その他にも多くの水草が見つかりました。見つかった水草の中にはリュウノヒゲモがありました(図2)。リュウノヒゲモは海に近い湖沼や水路に生えるヒルムシロ科の水草で、大阪府内ではほかでは見たことがありませんでした。大阪市立自然史博物館やきしわだ自然資料館に収蔵されている標本や様々な文献を調べてみましたが、大阪府内でのリュウノヒゲモの記録はありませんでした。これらの事実から、今回、久米田池で見つかったリュウノヒゲモは大阪府初記録の水草であることがわかりました。



図1. 久米田池の全域に生えるホザキノフサモ。水面から出ているものはすべてホザキノフサモの花茎で、大規模に繁殖しているのがわかる。2017年9月19日撮影。



図2. 大阪府新産のリュウノヒゲモ。今のところ、大阪府内では久米田池でしか確認されていない。2017年9月19日撮影。

今回、久米田池で確認された水草は全部で 15 種（オオサンショウモ、ウキクサ、コウキクサ、オオトリゲモ、ツツイトモ、リュウノヒゲモ、キショウブ、ヒメガマ、イグサ、ヨシ、キシユウスズメノヒエ、マコモ、ホザキノフサモ、ヒシ、オオバナミズキンバイ（広義））です。加えて、車軸藻類の一種であるシャジクモも採集できました。これらのうち、オオトリゲモは大阪府レッドリストで絶滅危惧Ⅰ類に、ツツイトモとシャジクモは環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、絶滅が危惧されています。また、オオバナミズキンバイ（広義）（図 3）は特定外来生物に指定されており、琵琶湖などでは大繁茂して問題になっています。久米田池でも今後の動向に注意する必要があるでしょう。



図 3. 久米田池で見つかった特定外来生物のオオバナミズキンバイ（広義）。生える環境によって葉の形や毛の様子が異なるので同定には注意が必要。  
2017年9月19日撮影。

久米田池は岸和田の方々にとっては身近なため池ですが、近年の水草に関する情報はありませんでした。そのため、今回の調査成果はとても貴重なもので、久米田池の植物の保全を図る上で重要な基礎資料となります。久米田池は身近なため池にも関わらず、今回の調査で大阪府初記録のリュウノヒゲモや 3 種の絶滅危惧植物が見つかるなど大きな発見がありました。水草は水中に生えるので採集するのが難しく、名前調べも難しいため、とっつきにくいと思われるようです。そのため、水草を調べている人は少ないのが現状です。今回の例からもわかるように、身近な場所にもまだまだ水草の謎は隠されています。興味を持った方は、まずため池をのぞいてみて、どんな植物が生えているか観察してみてください（もちろん安全第一で！）。

最後に宣伝ですが、2018年7月に大阪市立自然史博物館から水草のミニガイドを出版する予定です。水草の調べ方に関しての手頃な入門書ですのでぜひ手に取っていただければと思います。また、以下の文献には久米田池の水草の情報が詳しく載っていますので、興味がある人は読んでみてください。

首藤光太郎・横川昌史・志賀隆，印刷中．岸和田市久米田池で大阪府新産となるリュウノヒゲモ *Stuckenia pectinata* を確認．大阪市立自然史博物館研究報告 72: 47-51.

横川昌史・首藤光太郎・風間美穂・志賀 隆，久米田池（大阪府岸和田市）における水生植物相の現状と変遷．きしわだ自然資料館研究報告 5: 1-9.

横川昌史・首藤光太郎・志賀隆．岸和田市の久米田池でオオバナミズキンバイ（広義）を確認．Nature Study 64(4):6, 16.

（よこがわ まさし：大阪市立自然史博物館学芸員）

## 城はいつ消えた？

山岡 邦章

岸和田城には謎が多いのです。誰が最初に築いたのか、最後はだれが破却したのかすらわからないのです。発掘調査でも江戸時代の遺物が少ない。何度か調査をしましたが、遺構面直上に砕けた瓦を放り込んであるだけでそれ以外の生活感のある遺物が少なく、建築部材などが遺構面上で一切出土しない、本来は礎石があったであろう場所に礎石が残っていたのは1箇所のみで、その他は土坑状の遺構が確認できるだけでした。建築物を破却し非常に丁寧な撤去が行なわれ、陶磁器、什器等はもちろん、金属、金具類、礎石まで撤去されていたようです。

岸和田城の建物撤去の史料としては、旧岸和田藩士の齋藤貞常の記したものが、現在確認できている唯一です。明治4（1871）年の8月の記述には「城櫓破壊」と題されて「家禄奉還致すべき時期到来すべしとの御布告を拝見し恐れ入る上に復二の御丸の櫓竝に二重御門且は魚屋町なる外御堀埋め立てに相成由にて土堤御櫓の土塀など取壊すさまを見て如何とも云ふべき言葉もなく唯々恐れ入るばかりにて【時勢とは云いながらいかなれば實に落城のけふの有様】（八月廿日）」



昭和 18(1943)年撮影の岸和田城（岸和田市所蔵）

「(略) まづ宿に帰りけるに、わづか七八日の間に又々御城廓をとりこはす由にて、門前御城の水を落し或は土堤の松木を伐採し見る目もいたいた敷あはれなる有さまを見て(略)(九月八日)」と記されています。これは旧藩士からみて言葉もないくらいに他圧的な取壊しが行われ、齋藤の気持ちの揺れ、諦観がにじみ出るものです。この二の丸には二つの櫓があり、一つは三重の伏見櫓、もう一つは二重の西隅にある櫓でした。この頃、西隅櫓周辺はまだ政庁ですので、齋藤の記述からは伏見櫓が破却された可能性が高いと考えられます。わざわざ「二の御丸の櫓」と書くのは、徳川家から下賜され天守焼失後の城を代表する櫓であったからと言えるでしょう。

撤去ではないですが、明治4年に二の丸建物倒壊の記載が、旧岸和田藩士熊沢友雄の日記に見られます。

5月19日に「例剋ヨリ参庁スルノ所、二ノ丸多間長屋、昨夜ノ暴風ニテ倒ルヲ見ル、其他、政庁ノ屋根破損多シ・・・」とみえ、また6月4日には「藩庁・諸院、過日ノ大風ニテ殊ノ外破壊シ、未繕サルノ所、今日ノ大雨、屋ヲ漏リ、殿上傘・履ヲ用ユ・・・」

とあり、この時点では室内で傘、履を用いなければならぬほど御殿の建物は荒れていたようです。しかし熊沢の日記には、これ以降も齋藤のような想いの深い記述は見られないのです。明治4年7月14日の廃藩置県の衝撃とともに、版籍奉還、8月8日には旧藩主が東京へと移り、もはや御殿の修繕は叶わないという諦めがあったのかもしれない。

廃藩置県後、藩庁は岸和田県庁へと移行し、その頃の「公廨建物坪数帳 旧岸和田県」を見れば、県庁の建物の内訳と間取りをみるとちょうど奥と大奥を除いた部分に該当するようです。この年の5月にはかなりの破損をしていたとは言え、従来からの政庁はこの時期には県庁舎として

継続して使用されました。

その僅か5ヶ月後の明治4年11月22日には岸和田県は廃止され堺県の一部となります。以降県庁舎は堺県の出張所として使われたようですが、明治5年2月に出張所が廃止され、熊沢によると6月13日には残務整理を終え引き払われます。

半年後の明治6年1月14日(新暦)、太政官令「全国城郭存廃ノ処分並兵營地等撰定方」いわゆる「廃城令」が公布され、岸和田城も「第二号」つまり、廃城処分のリストに。しかし、このタイミングでの取り壊しに関する熊沢の記述や、文献史料は今のところありません。すでにある程度の取り壊しが行われていたのでしょうか。

そして廃城令9ヶ月後、明治6年10月6日(新暦)の熊沢の日記には旧藩士である山岡尹方邸からの帰路「略・・・帰路旧城二ノ郭内ヲ過ク、近来巍々(ぎぎ：山のように大きな)タリシ旧主ノ邸館纔ニ(わずかに)礎石ヲノミ存シ、茫々タル秋草虫声哀ヲ訴フ、茲ニ(ここに)至テ徘徊願望シ去ルニ忍ヒス、更ニ草径ヲ分テ歩ヲ進ム処、泉石跡ヲ存シ、庭樹三、五残ル・・・略」と見え、もはや二の丸御殿跡は、草生して礎石を残すのみであることが窺えます。廃城令後の岸和田城の様子を記した唯一のものです。

この明治6年の段階で廃城令に基づき、二の丸の全ての建物が撤去されていたと判断できます。つまり岸和田城の建物は、明治4年から6年にかけて消滅したのです。

(やまおか くにあき：郷土文化室)

## Information

### 自然資料館からのお知らせ

#### ●企画展「100均☆自然史グッズ巡回展」

100円ショップの商品のなかで、自然観察や科学工作に使えるグッズを紹介します。自由研究のヒントがたくさんつまっているかも。

会期：2018年6月2日(土)～7月1日(日)

10：00～17：00(入館は16時まで)

毎週月曜休館

場所：きしわだ自然資料館1階ホール(堺町6-5)

費用：無料

### 岸和田城の企画展

#### ●『続日本100名城』選定 古絵図でトリップ

岸和田を中心とした地図や古絵図を展示します。地図類からみえてくる本市の歴史にふれてください。6月12日・13日は展示入れ替えのため休場します。

会期：2018年6月14日(木)～10月14日(日)

休場日：毎週月曜日(但し7/16、9/17・24、10/8は開場)

場所：岸和田城天守閣2階展示室(岸城町)

費用：高校生以上300円・中学生以下無料

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

#### 連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館

TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101

Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp

きしわだ自然資料館ホームページ URL:

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>

岸ぶら「きしわだ自然散歩ワニ目線」

<http://kishibura.jp/blog/shizen/>